

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：17301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24792562

研究課題名(和文)在宅療養高齢者の地域連携の満足度に関する研究～よりよい地域連携構築を目指して～

研究課題名(英文) Study on the satisfaction of elderly home care community-aiming for better regional cooperation building -

研究代表者

横尾 誠一 (YOKOO, Seiichi)

長崎大学・医歯薬学総合研究科(保健学科)・助教

研究者番号：90508318

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：在宅で療養する高齢者を対象に地域医療福祉のサービスの満足度、満足に関連する要因を明らかにすることを目的として本研究を実施した。本研究結果から地域における医療と福祉が在宅で療養する高齢者の心身の健康状態および今後の療養意向(希望)を現行以上に把握、共有し、連携を強化していくことで、在宅で療養する高齢者による医療福祉サービスの満足度が向上することに繋がると考えられた。

研究成果の概要(英文)：I carried out this study for the purpose of clarifying the satisfaction of the service of the community medicine welfare, a factor in conjunction with the satisfaction for the elderly people who underwent at home medical treatment. Grasp shares the mental and physical health condition of the elderly person that the welfare undergoes at home medical treatment and future medical treatment intention (hope) with the medical care in the area than an act from these findings and thinks that I am connected in the satisfaction of the medical care welfare service by the elderly person who at-home, undergoes medical treatment improving by strengthening cooperation.

研究分野：医歯薬学

キーワード：在宅 高齢者 地域医療福祉 連携 満足度

1. 研究開始当初の背景

わが国は超高齢社会を迎え、様々な健康障害をもって生活する高齢者が急速に増加している。高齢者の1人暮らし世帯も、2000年の300万世帯から、2025年には680万世帯へと2倍に増加すると言われている。

「医療介護総合推進法(2014)」では、今後急増する高齢者に対し、高度急性期医療から在宅医療、介護までの一連のサービスを地域で総合的に確保することを掲げており、在宅で療養する高齢者に対する切れ目のない医療福祉サービスの必要性が高まっている。

在宅で療養する高齢者による地域医療福祉のサービスの評価(満足度)を明確にすることは、「地域医療福祉の発展」に有益である。しかしながら、在宅で療養する高齢者による地域医療福祉のサービスの評価に関する研究は見当たらず、十分とは言えないと考える。

2. 研究の目的

本研究は在宅で療養する高齢者を対象に地域医療福祉のサービスの満足度、満足度に関連する要因を明確にすることを目的とする。

3. 研究の方法

A 県内4ヶ所の通所リハビリ施設を利用している高齢者210名を分析対象とした。

日本語版患者満足度評価尺度「日本語版 Client Satisfaction Questionnaire8項目版(以下CSQ-8とする)」得点を従属変数、個人背景(性別、年齢、介護保険利用期間、同居家族の有無、公費受給の有無、住環境、社会の変遷及び自身及び配偶者の健康への不安、医療と福祉間での情報共有に関する思い、福祉間での情報共有に関する思い)を独立変数としてt検定、一元配置分散分析にて解析した。

倫理的配慮として、調査は、研究者から対象者へ、研究の趣旨、方法と協力の自由意思、匿名性の確保等を口頭と書面で説明し書面にて同意を得て実施した。尚、本研究は、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科保健学専攻倫理委員会の承認(番号:13022875)を受けて実施した。

4. 研究成果

(1) 対象者の概要(表1、2)

対象者は、男性73名(34.8%)、女性137名(65.2%)の合計210名。平均年齢は81.2±7.6歳、平均介護保険利用期間は38.2±37.9月、CSQ-8の平均得点は24.6±5.8点であった。同居家族は、あり166名(79.0%)、なし44名(21.0%)、公費受給はあり109名(51.9%)、なし101名(48.1%)、住居の立地環境は斜面地95名(45.2%)、平地115名(54.8%)、自宅への車の横付けは、可能163名(77.6%)、不可能47名(22.4%)、住居形態は、戸建173名(82.4%)、集合住宅37名(17.6%)、病気、治療に関する情報が医療と福祉で共有されているは、思う147名(70.0%)、思わない63名(30.0%)、病気、治療に関する情報が福祉間

で共有されているは、思う149名(71.0%)、思わない61名(29.0%)、療養生活意向の情報が医療と福祉で共有されているは、思う149名(71.0%)、思わない61名(29.0%)、療養生活意向の情報が福祉間で共有されているは、思う146名(69.5%)、思わない64名(30.5%)、今後の生活が、不安114名(54.3%)、不安でない96名(45.7%)、自身の健康が、不安125名(59.5%)、不安でない96名(45.7%)、配偶者の健康が、不安70名(33.3%)、不安でない31名(14.8%)、配偶者なし109名(51.9%)であった。

表1.対象者の概要 男性73(34.8%) 女性137(65.2%) n=210

対象	最大値	最小値	平均値	標準偏差	25%タイル	中央値	75%タイル
年齢	全体	97.0	65.0	81.2	7.6	76.0	87.0
	男性	93.0	65.0	78.1	7.9	72.5	85.0
	女性	97.0	65.0	82.8	7.0	79.0	88.0
介護保険利用期間	全体	194.0	1.0	38.2	37.9	11.0	55.3
	男性	144.0	1.0	32.4	29.0	10.0	52.0
	女性	194.0	1.0	41.2	41.6	11.0	61.0
ソーシャルサポート	全体	30.0	0.0	13.0	6.6	8.0	19.0
	男性	30.0	1.0	13.2	6.5	8.0	18.5
	女性	30.0	0.0	13.7	6.7	11.0	21.0
満足度	全体	41.0	11.0	24.1	6.1	21.0	26.0
	男性	41.0	11.0	24.1	6.1	21.0	26.0
	女性	38.0	11.0	24.9	5.7	24.0	29.0
要介護度	n数						
	要支援1	19	9.0				
	要支援2	38	18.1				
	要介護1	83	39.5				
	要介護2	48	22.9				
	要介護3	15	7.1				
要介護4	5	2.4					
要介護5	2	1.0					

表2.対象者の概要 男性73(34.8%) 女性137(65.2%) n=210

	n数	%	
同居家族	あり	166	79.0
	なし	44	21.0
公費受給	あり	109	51.9
	なし	101	48.1
住居の立地環境	斜面地	95	45.2
	平地	115	54.8
自宅への車の横付け	可能	163	77.6
	不可能	47	22.4
住居形態	戸建	173	82.4
	集合住宅	37	17.6
病気、治療に関する情報が医療と福祉で共有されている	思う	147	70.0
	思わない	63	30.0
病気、治療に関する情報が福祉間で共有されている	思う	149	71.0
	思わない	61	29.0
療養生活意向の情報が医療と福祉で共有されている	思う	140	66.7
	思わない	70	33.3
療養生活意向の情報が福祉間で共有されている	思う	146	69.5
	思わない	64	30.5
今後の生活	不安	114	54.3
	不安でない	96	45.7
自身の健康	不安	125	59.5
	不安でない	85	40.5
配偶者の健康	不安	70	33.3
	不安でない	31	14.8
配偶者なし	109	51.9	

(2) 個人背景による「CSQ-8」得点の平均値の差(表3)

t検定、一元配置分散分析の結果、公費受給ありの者(p=0.017)、病気、治療に関する情報が医療と福祉で共有されていると

う者(p=0.040)、病気、治療に関する情報が福祉間で共有されていると思う者(p=0.001)、療養意向に関する情報が医療と福祉で共有されていると思う者(p<0.001)、療養意向に関する情報が福祉間で共有されていると思う者(p<0.001)、自身の健康に不安がない者(p=0.047)が有意に CSQ-8 の平均得点が高い結果であった。

表3.満足度得点の個人背景の属性による平均値差 n=210

個人背景の属性		満足度平均値(±SD)	p値
年齢	前期高齢者	24.0±5.6	0.417
	後期高齢者	24.8±5.8	
介護保険利用期間	1～9月	24.0±5.7	0.686
	10～19月	25.4±5.7	
	20～29月	24.0±6.8	
	30月以上	24.6±5.8	
性別	男性	24.1±6.1	0.382
	女性	24.9±5.7	
公費受給	あり	25.5±5.9	0.017
	なし	23.6±5.6	
同居家族	あり	24.9±5.9	0.179
	なし	23.6±5.4	
立地	斜面地	25.0±5.0	0.061
	平地	24.3±6.4	
車の横付け	可能	24.6±6.0	0.852
	不可能	24.7±5.4	
住居形態	戸健	24.6±5.7	0.886
	集合	24.7±6.4	
病気治療に関する情報が医療と福祉で共有されている	思う	25.1±5.9	0.040
	思わない	23.4±5.3	
病気治療に関する情報が福祉間で共有されている	思う	25.4±5.7	0.001
	思わない	22.6±5.7	
療養意向に関する情報が医療、福祉間で共有されている	思う	25.7±5.8	<0.001
	思わない	22.5±5.5	
療養意向に関する情報が福祉間で共有されている	思う	25.7±5.7	<0.001
	思わない	22.2±5.4	
今後の生活の不安	不安	24.3±6.1	0.420
	不安でない	25.0±5.5	
自身の健康の不安	不安	23.9±5.6	0.047
	不安でない	25.6±6.0	
配偶者の健康の不安	不安	24.1±6.3	0.851
	不安でない	24.3±5.9	

(3)結論

本研究結果は、地域における医療と福祉が在宅療養高齢者の心身の健康状態および今後の療養意向を現行以上に把握、共有し、連携を強化していくことで、在宅療養高齢者によるケアサービスの満足度向上に繋がることを一部説明できるかもしれない。

また、公費受給ありの者に満足度が高いのは、サービスに対する経済的負担が少ない方が満足度にも影響しているのではないかと推察する。

一地域における横断的調査であるために、今後は調査地域を拡大し、検討していく必要がある。

地域医療福祉のサービスの満足度を標準化された尺度で検討した研究は、国内外ともに見当たらない。本研究成果、高齢化が進行中の国内外の諸地域における医療福祉サービスの向上に寄与できる可能性がある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

1. 横尾誠二、大町いづみ、訪問看護師の死生観-個人背景との関連-、日本在宅ケア学会誌、査読有、17(2)、29-36、2014.
2. 大町いづみ、横尾誠二、田村瞳、野副晃、松藤由布子、森園加奈、安部恵代、有馬和彦、水上論、後藤尚、青柳潔、高齢がん患者の病院から自宅療養移行に関連する要因、九州農村医学会雑誌、査読有、22、9-13、2013.
3. 横尾誠二、大町いづみ、看護職者のスピリチュアリティに関連する要因 精神科看護職者を対象として-第43回日本看護学会論文集 看護総合、査読有、167-170、2013.
4. 大町いづみ、中原和美、糸山景大、井口茂、平瀬達哉、東登志夫、田中浩二、中尾理恵子、川崎涼子、新田章子、横尾誠二、松坂誠應、「統合ケア実習」の効果 連想法を用いて-、保健学研究、査読有、24(2)、41-49、2012.

〔学会発表〕(計6件)

1. 横尾誠二、大町いづみ、中根秀之、在宅療養高齢者の地域医療福祉の連携によるサービスの満足度に関する研究、第19回日本在宅ケア学会学術集会、2014年11月30日、九州大学医学部百年講堂(福岡県福岡市).
2. 中村麻美、庄島晴菜、廣瀬桃子、山下友花、横尾誠二、大町いづみ、訪問看護ステーションへの就業意欲の有無と就業希望の選択に関連する要因、日本ホスピス・在宅ケア研究会第22回神戸大会、2014年7月12日、神戸ポートピアホテル(兵庫県神戸市).
3. 横尾誠二、大町いづみ、森内剛史、中根秀之：在宅療養高齢者の地域医療福祉の連携によるサービスの満足度に関する研究 第一報、第18回日本在宅ケア学会学術集会、2014年3月16日、一橋大学一橋講堂(東京都千代田区).
4. 大町いづみ、下屋敷元子、金子和美、船元太栄子、佐竹啓子、元平泉、松島由美、横尾誠二、藤井卓：訪問看護利用者の訪問看護サービスへの満足度に影響する要因、第18回日本在宅ケア学会学術集会、2014年3月16日、一橋大学一橋講堂(東京都千代田区).
5. 西村知紘、徳淵珠、平林摩耶、古川智幸、横尾誠二、大町いづみ、訪問看護師のやりがいに影響する要因、日本ホスピス・在宅ケア研究会第21回長崎大会、2013年7月6日、ブリックホール(長崎県長崎市).
6. 横尾誠二、大町いづみ、訪問看護師の看取りケアへの満足度に影響する要因、第17回日本在宅ケア学会学術集会、2013年3月10日、茨城県立県民文化センター(茨城県水戸市).

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横尾 誠一 (YOKOO, Seichi)
長崎大学・医歯薬学総合研究科保健学科・
助教
研究者番号：90508318

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：なし

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：なし

(4) 研究協力者

中根 秀之 (NAKANE, Hideyuki)
大町 いづみ (OHMACHI, Izumi)